

加工用ばれいしょの収量性改善

～江別市野幌～

1 課題設定の背景

- (1) 野幌の作付面積は42ha（JA道央全体の6割）。
- (2) 主要品種は“トヨシロ”
- (3) H28～H30年の10a収量が基準の3000kgを下回っている。
- (4) 実態調査でわかった低収要因

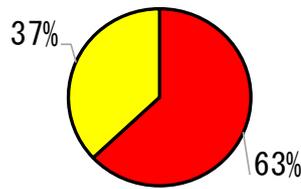


- ① 病害の多発
- ② 土壌養分の乱れ（リン酸過剰 & 石灰不足）



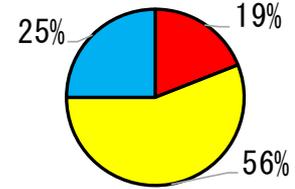
疫病発生ほ場 (H30)

ほ場のリン酸
(野幌H30)



■ 過剰 ■ 基準値内 ■ 不足

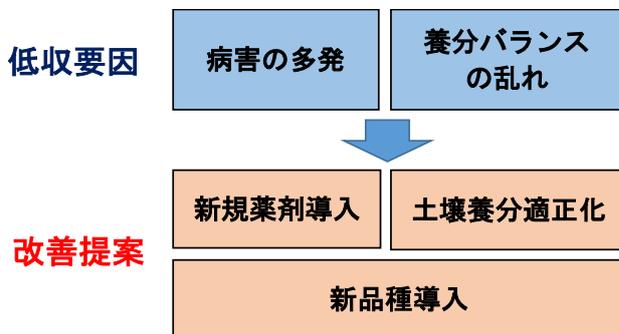
ほ場の石灰分
(野幌H30)



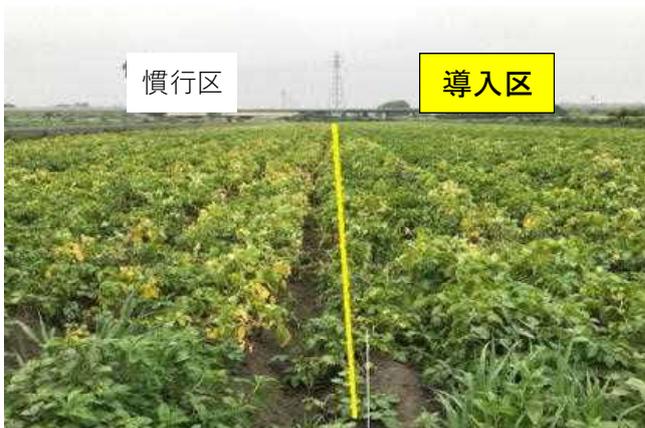
■ 過剰 ■ 基準値内 ■ 不足

2 普及活動の内容

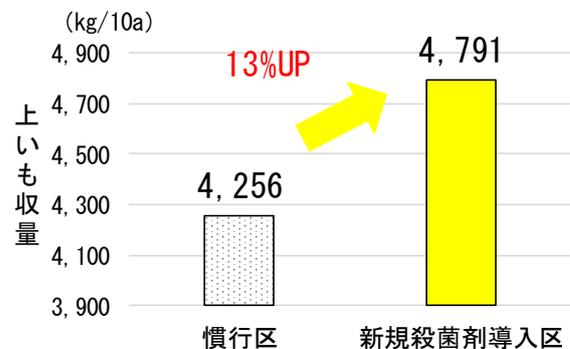
- (1) 現地講習会で農業者らと課題（下図）の共有を図った。



- (2) 新規殺菌剤A（オキサチアピプロリン+ファモキサドン）の導入効果確認



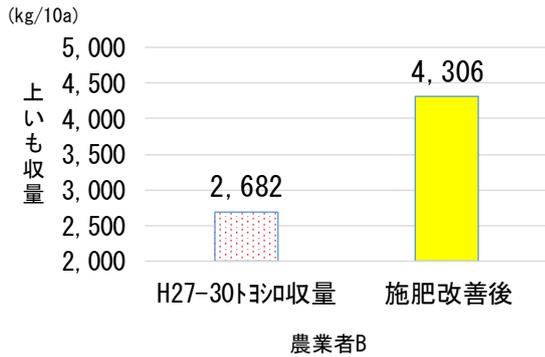
茎葉黄変期頃の試験ほの様子



農業者A

※でんぷん価は同等

(3) リン酸減肥+石灰増肥の効果確認



※でんぷん価は同等
※石灰資材は「畑のカルシウム」を使用

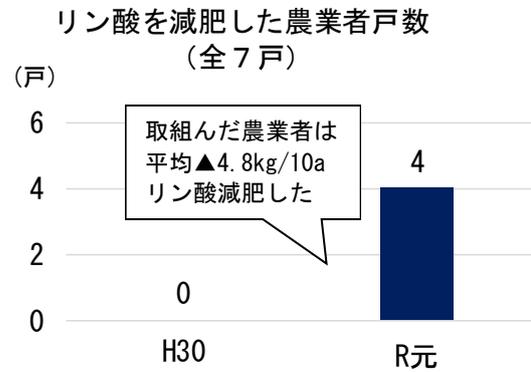
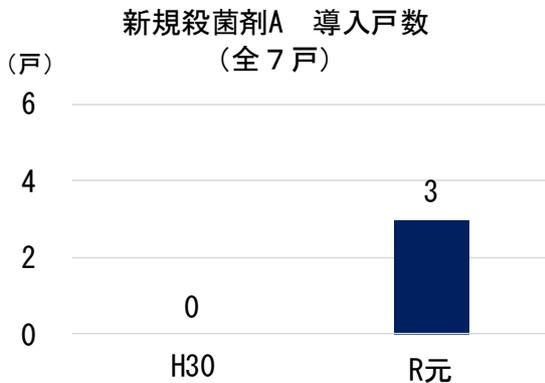
(4) 新品種導入試験

	上いも収量 (kg/10a)	標準比 (%)	ライマン価 (%)
新品種	4,617	100	15.3
トヨシロ	5,083	110	17.6

- <農業者の声>
- 適正施肥に取り組んだことにより、10a収量が過去最高となった!
 - 新品種の可能性は見いだせなかったが、トヨシロでも十分穫れることがわかった!

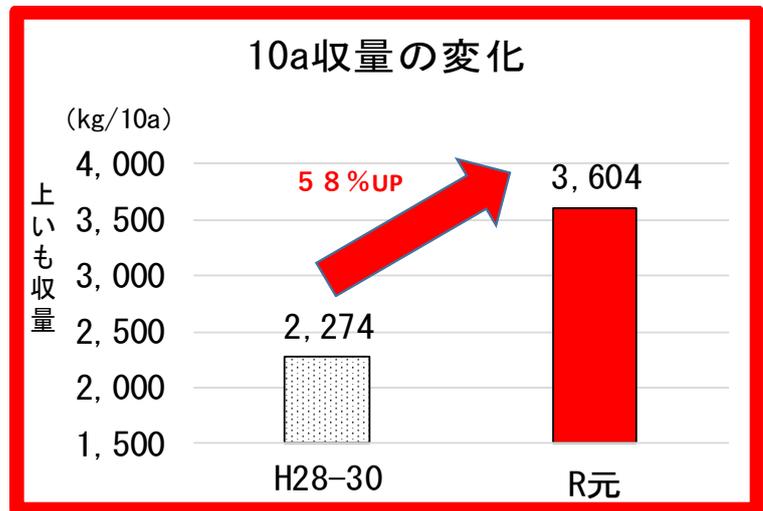


3 普及活動の成果



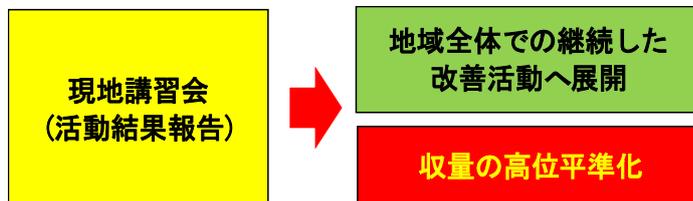
<活動成果>

農業者の取組変化によりR元年産の野幌地区の10a収量が過去3年の平均収量を大きく上回りました。



4 今後の普及活動

(1) 取組成果の波及 (下図)



(2) 残された課題への対応

- 枯れ上がりが早いことへの対策 (施肥量見直し、追肥等)
- 防除体系の見直しによる防除コストの削減
- 雑草対策